

## 滋賀医大への思い：温故知新

前田 敏博

滋賀医科大学名誉教授

私は本年3月に定年(65歳)を迎え退職しました。早いものでこの大学を作るべくやってきてから24年の歳月が流れた訳です。昭和49年秋には守山の大学仮校舎へしょっちゅう出入りしましたから、ほぼ25年(1/4世紀)滋賀県に在ることになります。隣の教室の先生だった越智名誉教授はすでに亡くなられ8月30日、学生さんの解剖用に献体されました。

先日、図書館でのコラボレーションセンターができたお祝いに来ました。そこで最も感じたことは「寄らば大樹のかげ」であり、大樹の下にいる人々は何も感じていないことでした。私も滋賀医大に居た時には、デジタルなんてと思っていた典型的アナログ人間だったのですが、小さな学校の校長をしていますと、やはりコンピューターの有り難さを身にしみを感じています。コンピューターを使いこなすためには新しい世代の人でなければ駄目でしょうが、古い世代の人がそれを必要だと思っているかどうかなのです。私のいる学校では紙文化だけです。私のような人間には丁度良いのですが、世の中はそんなに甘くないのです。前述の図書館のお祝いの席で「マルチメディアでなくインターネットの地域センターでありたい」と小澤学長や小玉図書館長が言われたのを聞いていて、果たして何人の人がこのことを理解しているのだろうかと思いました。図書館長をしている時にも同様なことを思ったのですが、大学は地域の中心として情報を受け、情報を流すことが必要なのです。是非インターネットを活用して下さい。

さて、依頼された原稿の内容は“専門領域に係わる最近の研究動向や随筆など”だそうです。小生の専門領域は解剖学でした。ご承知のように解剖学に限らず全ての生物学的学問は遺伝子に向かっておりま

す。小生の専門は解剖学の内でも中枢神経系だったのですが、最近では、全ての細胞は同じ遺伝子群を持っていて、その系なり組織になってからそれに適合した遺伝子群が発現されただけであると考えているのです。例えば腫瘍には腫瘍を決めている遺伝子があって、系別に考える必要は無いのではないかと云う考えです。腫瘍に共通していることは細胞分裂です。ですから分裂が早くかつ無制限に起こり出せば癌化したことになりましょう。小生の経験では80歳以上で死んだ人は死因が何であれ、どこかに腫瘍をもっているものです。癌化し易い臓器と、し難い臓器のあることは事実ですが、共通項を括り出せば、そうなりましょう。その際原発組織や器官は関係ないことになります。

神経は系が最も濃厚な組織です。小生が仕事を始めたとき、最も不思議だったのは何故ある神経細胞はある決まった線維連絡をするのかでした。おそらくその神経細胞群(核と神経系では呼んでいます)には特有な抗原があって、その抗体で免疫染色したら線維連絡などすぐわかるだろうと思いました。現在そうになっている部分もありますが、殆どの特異抗原は分かっていません。

ですから現在は、遺伝子を求める考えと、系を考える考え方は完全に対立しています。しかし、この議論の将来は必ず系を考えざる得なくなるでしょう。中枢神経の場合、研究はどんどん大脳皮質へ向かうでしょう。その時、神経細胞同士の連りは重要な意味を持つはずですが、現在は脳幹の研究が多く行われていますので、下等動物(ラット)を実験に使っています。しかし大脳皮質の研究となると、よりヒトに近いかなり高等な動物(霊長類など)を実験に使わざるを得なくなります。米国では動物を実験

Received November 30, 1999

Correspondence: 滋賀医科大学名誉教授 前田 敏博 〒520 2192 大津市瀬田月輪町

につかえないので、細胞や組織を培養し、基礎実験をし、臨床的なそれは人体実験をするとアメリカの研究者が云っていました。こうなると遺伝子が幅を生かすのは当然です。日本も同様になるのでしょうか。

私は違うと思うのです。異なった土壌で育てられた学問は、どうしても違った方向に向かいます。戦後50年間は完全にアメリカ追随型であったと思います。また明治以後、わが国は脱亜入欧せざるを得なかったわけです。最近フランスの雑誌で“サムライはどのようにして学者になったか”と云う特集があり、それを読みました。それによりますと日本にはすでに多くの科学的思考（因果律的発想）があったのだとありました。江戸時代の教育（寺小屋）、測量法、絵画など詳しく調べてありました。日本人として恥ずかしいと思いました。その通りです。私共は明治維新（Meiji revolution）100年にあるのではなく、日本文化何千年何百年にあるのです。唯、昔の先進国は中国であり明治以後の先進国は欧米であった関係上、表日本と裏日本が逆になっただけです。日本人は良く真似をすると云われます。それは上記のように先進国がどこかにあったからです。今後はそうは行かないのです。日本人の独創的発想が求められているのです。

もう一度系の問題に戻りますが、このように考えますと両者は一致するとの考え方を理解してもらえましょう。物理学と同様、医学・生物学でも素粒子（遺伝子）と物性（系）とは糾える縄の如くなることは分かっています。各組織共通の遺伝子の時代が終わった時、どのようにして系が出来たのか、それ独特の疾患はどのようにして起こるかを考えざる得なくなります。その時後追いをしないようにして下さい。ただし遺伝子のことが分からないからでは困るので、共通の遺伝子が分かっている、各系が分かるようにしておいて下さい。「系を考える必要はない」と云う考えは捨てておいて下さい。

二つの考え方があると、どちらかが勝ってどちらかが負けると考えがちです。例えば、邪馬台国畿内説と北九州説のようなものです。小生もそれに踊らされた一人ですが、最近ではそんなことよりヤマト政権はどのようにして出来たかが大切なのだと考えるようになりました。

デジタルとアナログもそうなるのでしょうか。アナ

ログをデジタル化する必要性は機械文明に依存する限り避けられないのです。しかし写真が証拠にならなくなったのは困ったことです。種々の雑誌の査読をしておられる先生方は今後、電子雑誌が増加して困られることでしょう。

アナログの時代（紙文化の時代）を知っていてデジタルにもっていった人が必要となるのです。デジタル一筋で生きてきた人より大切なのです。その意味で小生はコンピューターの重要性を述べているのです。何事も温故知新です。